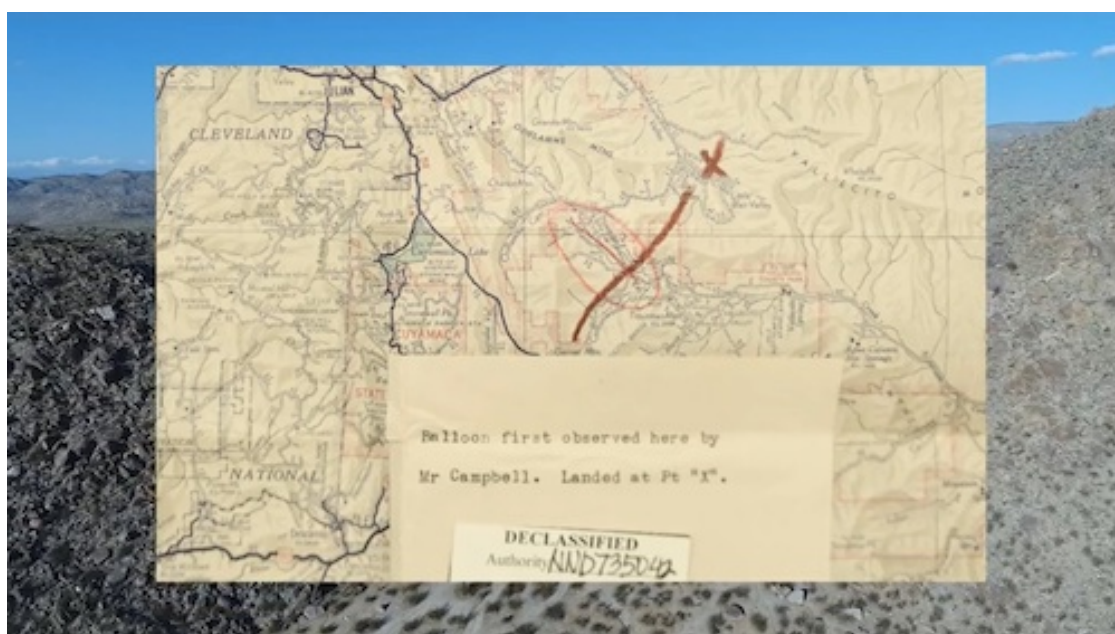


2019/02/16

竹内 公太

「盲目の爆弾」



「盲目の爆弾、コウモリの方法」(2019 映像作品)より

会期：2019年3月8日(金)～4月13日(土) 13:00 - 19:00 *日・月・火・祝日は休廊

オープニングレセプション：3月8日(金) 18:00 - 20:00

会場：SNOW Contemporary / 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

■竹内公太 個展「盲目の爆弾」のご案内

SNOW Contemporary では 2019 年 3 月 8 日(金)から 4 月 13 日(土)まで、竹内公太による個展「盲目の爆弾」を開催いたします。

1982 年生まれの竹内は、2008 年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科を卒業し、現在は福島県を拠点に活動しています。竹内はこれまで、ふくいちライブカメラのモニターに突如現れた指差し作業員の代理人として災害を見る側の意識と匿名表現者の自意識を浮き彫りにした「公然の秘密」(2012 / SNOW Contemporary、東京) や、遺物を中心に刻まれた記憶を辿った「影を食う光」(2013 / 森美術館、福島)、手 (= 携帯機器) で情報を取得する我々の風景をとらえた「手の目」(2014 / SNOW Contemporary、東京)、福島県いわき市の図書館で出会った書籍に掲載された石碑巡りをトレースすることでメディアの性質と人の記憶の有り様を示した「写真は石碑を石にする、それでも人は」(2017 / SNOW Contemporary) など、緻密なリサーチを元に、絵画や彫刻、写真、インスタレーションなど一定の表現方法にこだわらない多岐にわたるメディアによる展示を展開し、記憶や記録に転換する際のメディアの在り方や受け手の意識を浮き彫りにしてきました。

そして 2017 年、竹内はアジア・カルチュラル・カウンシル・日米芸術交流プログラムにて、旧原子力開発施設の視察と日米戦争関連の調査のためアメリカに約 6 ヶ月間、滞在していました。本展では、第二次世界大戦時の 1944 年から翌年にかけて日本軍によって投下された風船爆弾の歴史を題材とした映像・写真作品を発表いたします。映像作品「盲目の爆弾、コウモリの方法」は米軍記録文書等を参考にカリフォルニア、ワシントン、アイダホ、ユタ、ミシガン、モンタナ、ワイオミング、そして福島、北茨城、千葉でのフィールドワークを元に制作されました。国内近代史にまつわる記憶や遺産をたどる作品群を発表し続けてきた竹内が、日米をまたいでの調査をベースに制作した新作に是非ご期待ください。

■竹内公太 / アーティストステートメント

第二次世界大戦末期に日本は風船爆弾という兵器を使用しました。直径 10 メートルの和紙製の風船気球に水素を詰め爆弾をぶら下げたものをおよそ 9300 発、アメリカに向けて放ちました。歴史研究は今も続けられていて、風船爆弾を題材とした小説が近年相次いで出版されています。アメリカでも 2014 年に歴史家によるノンフィクションが出版されました。

私は私の住む福島県いわき市が放球地のひとつだったことから調べ始めました。2017年にアメリカに行く機会を得たので、国立公文書館に行って当時の米軍情報部の報告書を読みました。予想以上に多くの目撃者がいた事、詳しい着弾場所がわかることに驚きました。

いくつかの着弾場所を探して訪問し、小型ドローンで"風船の最後の動き"の再現を試みました。あるサウンドアーティストにこの話をしたところ、それってエコーだね、と言われました。文書を手がかりに、73年遅れのエコーロケーション（コウモリが超音波を用いて暗い洞窟を飛行する方法のよう）というわけです。

しかし、これは本来目のない兵器の"視線"を撮影するわけで、奇妙なことです。こうなったら私は、Harun Farockiの言った"ファントム・イメージ"の、日本版亜種を作りたいと考えました。

現代の遠隔兵器にはカメラがついていて、相手の姿を捉えて攻撃しています。一方、風船爆弾は、相手側に何をもたらすか、視認する手段もなく大量に放たれ続け、作戦終了しました（実際は6名の民間人を殺害していました）。この点で、自ら進んで盲目に陥ることで戦争を推進した、日本という国の技術礼賛体質をよく表しているように思えます。

私は盲目を野蛮の言い訳にせず、知のきっかけにしたいと思います。本展でもそれを目指します。

盲者の、あるいはコウモリの知にならって。

2019年1月19日

■ 竹内公太 略歴

2008 東京芸術大学美術学部先端芸術表現科 卒業

【個展】

2017 「写真は石碑を石にする、それでも人は」 SNOW Contemporary (東京)

2016 「メモリー・バグ」 The Arts Catalyst (ロンドン / イギリス)

2015 「Re:手の目」 SNOW Contemporary (東京)

2013 「影を食う光」 森美術館 (福島)

2012 「公然の秘密」 SNOW Contemporary (東京)

【主なグループ展】

2017 「アジア・アートビエンナーレ 2017」 国立台湾美術館 (台北 / 台湾)

「Search & Destroy」 TAV Gallery (東京)

- 2016 「PERPETUAL UNCERTAINTY」 Bildmuseet (ウメオ / スウェーデン)
*翌年、Z33(ベルギー)へ巡回。
- 2015 「Don't Follow The Wind」 東京電力福島第一原子発電所事故に伴う帰還困難区域内某所 (福島)
「Don't Follow The Wind non-Visitor-Center」 ワタリウム美術館 (東京)
- 2014 「The Fifth Season」 James Cohan Gallery (ニューヨーク / アメリカ)
「Good Morning Mr Orwell 2014」 Nam June Paik Art Center (ソウル / 韓国)
「Censorship: The 7th Move on Asia」 Altanative Space Loop (ソウル / 韓国)
「Three Years After」 Wilfrid Israel Museum (ハゾレア / イスラエル)
- 2013 「Media / Art Kitchen", Bangkok Art & Culture Centre (バンコク / タイ)
「Art/Domestic:未来の体温after Takashi Azumaya」 ARATANIURANO|山本現代(東京)
「MOT コレクション After images of tomorrow", 東京都現代美術館 (東京)
「サイドコア—Body / Media / Graffiti」 Terratoria (東京)
「第42回いわき市民美術展」 いわき市立美術館 (福島)
- 2012 「Kashiwa City Jack(アートラインかしわ2012)), カラdeガナール(千葉)
「明日は、はじめてみる今日」, Snow Contemporary(東京)
「Daegue Photo Biennale 2012」, Center for Developing Culture (大邱/韓国)
「ひっくり返る」 ワタリウム美術館 (東京)
- 2011 「ソーシャルダイブ—探検する想像」 3331 Arts Chiyoda (東京)
- 2010 「Eun Hyung Kim, Emilija Skarnulyte, Kota Takeuchi」 RM Gallery(オークランド/ニュージーランド)
「群馬青年ビエンナーレ2010」 群馬県立近代美術館 (群馬)
「京都オープンスタジオ2010」 兼文堂スタジオ (京都)
- 2009 「101TOKYO Contemporary Art Fair 2009
「101 DISCOVERIES」 アキバ・スクウェア (東京)
「FRESH SELECTION」 ARTZONE (京都)
- 2008 「FRESH」 URBAN BACK-SIDE LABORATORY R2 (千葉)

【レジデンス・プログラム】

- 2010 「Wongok-dong Recipe」 Litmus Community Space (安山市/韓国)

【フェローシップ】

- 2017 「ACC アジア・カルチュラル・カウンシル・日米芸術交流プログラム」

【受賞】

- 2013 「第42回いわき市民美術展」 入賞
2010 「群馬青年ビエンナーレ2010」 奨励賞

【収蔵】

東京都現代美術館、Kadist芸術財団

■ お問い合わせ — 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com HP : <http://snowcontemporary.com>

担当 : 石水美冬 (いしみず みふゆ)